ギャンブルへの渴望が財産目的の犯罪を予測する

日本の刑務所データを用いて

○横谷 謙次^{1,2}・田村 勝弘^{3#}・金子 祐亮^{4#}・神村 栄一⁵

(徳島大学¹・サイコビット²・新潟少年鑑別所³・新潟刑務所⁴・新潟大学⁵)

キーワード: 病的賭博, 財産犯罪, サイコパス

Craving for gambling predicts property crime

Kenji Yokotani^{1,2}, Katsuhiko Tamura³, Yusuke Kaneko⁴ and Eiichi Kamimura⁵

(Tokushima University¹, PsychoBit², Niigata Juvenile discrimination center³, Niigata Prison⁴, Niigata University⁵)

Key Words: pathological gambling, property crime, psychopathy

問題と目的

ギャンブルと犯罪の関連は頻繁に報告されているが (Mishra, Lalumière, Morgan, & Williams, 2011)、ギャンブルから特定の犯罪への経路はさほど報告されていない (May-Chahal, Humphreys, Clifton, Francis, & Reith, 2017)。

本研究では経路モデル (Pathway Model: Blaszczynski & Nower, 2002) を利用し、ギャンブルへの渴望によって、財産目的の犯罪、麻薬目的の犯罪、および暴力的犯罪を予測するかどうかを検討した (Fig. 1 参照)。

方法

調査協力者は日本の地域刑務所に在籍する332人の男性受刑者である。彼らは、ギャンブル行動 [SOGS (Lesieur & Blume, 1987) GSAS (Kim et al., 2009)]、アルコール中毒 [AUDIT (Bush et al., 1998)]、インターネット中毒 [Young's IAT (Young, 1998)、衝動性 the 11th edition BIS (Patton et al., 1995)]、およびサイコパス傾向 [PSPS (Levenson et al., 1995)] に関する質問紙に答えた。彼らの現在の罪名、懲役刑の期間、受刑回数、および教育を受けた期間に関する情報についても、刑務所の公式記録を用いて分析された。

倫理的配慮

なお、本研究は地域の刑務所の委員会と地方国立大学の倫理委員会によって共に承認されている。さらに、すべての手順は、人間を含む研究のためのガイドライン、施設内研究委員会の倫理基準、および1964年に改訂されたヘルシンキ宣言およびその後の改正または同等の倫理基準に従って行われた。

結果

結果は、調査協力者の38.55% (n = 128) が病的賭博障害の可能性を示している。この結果は、刑務所受刑者における問題の賭博の割合は、一般の日本人の人口の少なくとも4倍以上であることを示した。

また、ギャンブルに対する彼らの渴望は財産目的の犯罪を予測した (Fig. 2 参照)。特にCFI (.963)、SRMR (.042)、およびGFI (.977) は厳密な基準をクリアしていた (West, Taylor, & Wu, 2012)。RMSEA (.066)、AGFI (.920)、 χ^2 / df (2.12) はこの基準を満たしていないが、この程度の値は心理学 (Jackson, Gillaspy, & Purc-Stephenson, 2009) 及び社会科学の領域では概して受け入れられている (Hooper, Coughlan, & Mullen, 2008)。一方、麻薬目的および暴力的な犯罪は予測しなかった。この結果は、ギャンブルへの渴望が、感情的な問題や衝動的な問題ではなく、経済的な問題と関連している可能性を示している。

考察

経路モデルは、従来情緒の問題及びサイコパスから問題となる賭博傾向を示してきたが (Lobo et al., 2014; Moon, Lister, Milosevic, & Ledgerwood, 2017; L. Nower & Blaszczynski, 2017; Turner, Jain, Spence, & Zangeneh, 2008, Ledgerwood & Petry, 2010; Valleur et al., 2016, Milosevic & Ledgerwood, 2010)、本研究では、この経路モデルによって、情緒の問題及びサイコパスから問題となる賭博傾向を経由して、財産目的の犯罪も予測することを示した。

謝辞

本研究はJournal of Gambling Studiesに投稿中の論文であり、その一部はInternational Academy of Law and Mental Health Rome 2019及び6th International Conference on Behavioral Addictionsにて発表される予定である。

Fig. 1 Conceptual pathways from addiction/psychopathy to offense via gambling

Note: Solid line indicates positive effect, dashed line indicates negative effect

Fig. 2 Pathways from addiction/psychopathy to income-generating offense via gambling

Note: System indicates standardized coefficients. Only significant paths are shown in the figure. SOGS: the South Oaks Gambling Scale, GSAS: the Gambling Severity Assessment Scale, IAT: the Internet Addiction Test, PSPS: the Primary and Secondary Psychopathy Scale, BIS: the Barratt Impulsiveness Scale 11th edition. ** $p < .01$, * $p < .05$, $\chi^2(27.46, df=11, p=.003)$, $d^2(R^2)=2.12$, CFI=.963, RMSEA=.066, SRMR=.042, GFI=.977, AGFI=.920, AIC=91.642, BIC=201.707